

# 三芳町の宝を、未来へつなぐ。

平成 30 年 3 月 1 日、第 2 回三芳町議会定例会で林伊佐雄町長から施政方針が発表されました。その中から、まちの進む未来や今後の取り組みをお伝えします。

三芳町長

林 伊佐雄



## 大きく評価された町

昨年 11 月 20 日、地方自治法施行 70 周年記念式典において三芳町は総務大臣表彰を受賞しました。自らの創意工夫により優れた施策を実施し、地方自治の充実発展に寄与したという理由です。特に、自治体広報紙の常識を覆す広報みよしの作成、日本農

業遺産の認定、よみ愛・読書のまち宣言、健康長寿事業など、そして何よりも町の様々な課題を住民と共に解決してきた協働のまちづくりが大きく評価されました。日本は少子高齢化、人口減少社会を迎え、多くの難しい課題に直面しています。こうした中、

魅力と活力ある町を創り、住民の福祉の増進を目的にする地方自治体の責任は、以前にもまして重く、大きいと考えます。未来は予測できず、どのような困難が待ち受けているかわかりません。しかし、支え合い、連携し、協働することで、必ず目的地に到達できると信じています。



小さなころから「愛するふるさと三芳町」の心を育み、町への愛着を高めていきます。

## 町政運営の基本方針

今年度は第 5 次総合計画の 3 年目にあたり、前期計画の検証と並行してさらなる進捗に力を

注ぎ、「愛するふるさと三芳町」に向けて着実に成果を残さなくてはなりません。これまでも、スマート IC フル化の着工、武蔵野の落ち葉堆肥農法の日本農業遺産認定、健康長寿事業の優秀市町村表彰、緑のトラスト 14 号地のオープン、新たな交通施策、マレーシアのペタリングジャヤ市との姉妹都市提携、企業誘致・留置など、様々な成果を上げつつあります。一方で、行財政改革は喫緊の課題であり、これまで行財政改

革を最重要施策として取り組んできましたが、経常収支比率や基金残高の改善などの成果が現れ始めています。しかし、行財政改革を優先するあまり、まちづくりが委縮し、町政運営を停滞させてはなりません。未来の豊かなまちづくりへのチャレンジや投資も進めていきます。今年度も、皆さまとの約束にコミットし、夢をかたちに、計画を実行に移し、三芳町をさらにダイナミックに成長発展させていきます。

## POINT

### 3 つの町政運営の基本方針

#### 未来に“つなぐ”まちづくり ～三芳の宝、歴史・文化・自然の継承

日本農業遺産に認定された「武蔵野の落ち葉堆肥農法」、車人形をはじめとした伝統的な芸能文化、評価の高い広報紙作り、子ども読書活動、健康長寿事業、マレーシアとの国際交流、協働のまちづくり、みよしまつりや産業祭など、三芳町の宝を未来に継承

する、「つなぐ」ことが、まちづくりの重要なテーマであると考えます。



#### 常在維新 ～日に新たにチャレンジを

維新とは「維（これ）新たなり」。まちづくりの重要なテーマが「つなぐ」こととしたら、一方で日々新たに常に自己を新しくしていくことが求められます。絶えず「常在」チャレンジしていくことが、三芳町の宝を未来につなぐことになり、その変革がさらなる

発展を生成します。新たな事業を展開し、チャレンジしていきます。



#### 未来を創る“MIYOSHI オリンピアド” ～オリンピズムによる“まちづくりムーブメント”

2020 年の東京オリンピック・パラリンピックは、三芳の未来を変え、新たな生き方を創造する大きなチャンスです。今年度から 2020 年までの期間を、スポーツと文化、教育などを融合させ、新たな生き方の創造をめざす「MIYOSHI オリンピアド」

と位置付け、事前キャンプの誘致、幅広い分野での地域の連携によって世界とつながります。

